

R RITSUMEIKAN

立命館宇治中学校・高等学校

RITSUMEIKAN UJI JUNIOR and SENIOR HIGH SCHOOL

WWL成果報告会

*Your Link
to the
World*

令和4年2月21日（月）
14:40-14:55

立命館宇治高等学校
上杉 兼司



World Wide Learning

本日の話題

参考資料として参照いただけるよう、発表に使用するもの以外も掲載しています。

- 1 はじめに
- 2 構想目的と目標
- 3 何が実現したか
- 4 コロナ禍での対応
- 5 生徒たちの成長につながったか
- 6 課題となったこと・今後に向けて

SGHでの取り組み

① 留学プロジェクト・イマージョン授業 + PBL型授業



英語教育からグローバル教育へ

SGHでの取り組み

② アクションにこだわったPBL型授業 in 宇治 & ラオス



PDCAサイクルを回しながら実践

- ・ 解決したい社会課題を設定
- ・ 課題の現状調査と解決策の考案
- ・ **解決策の実施**
- ・ 解決策の評価・再検討

ラオス



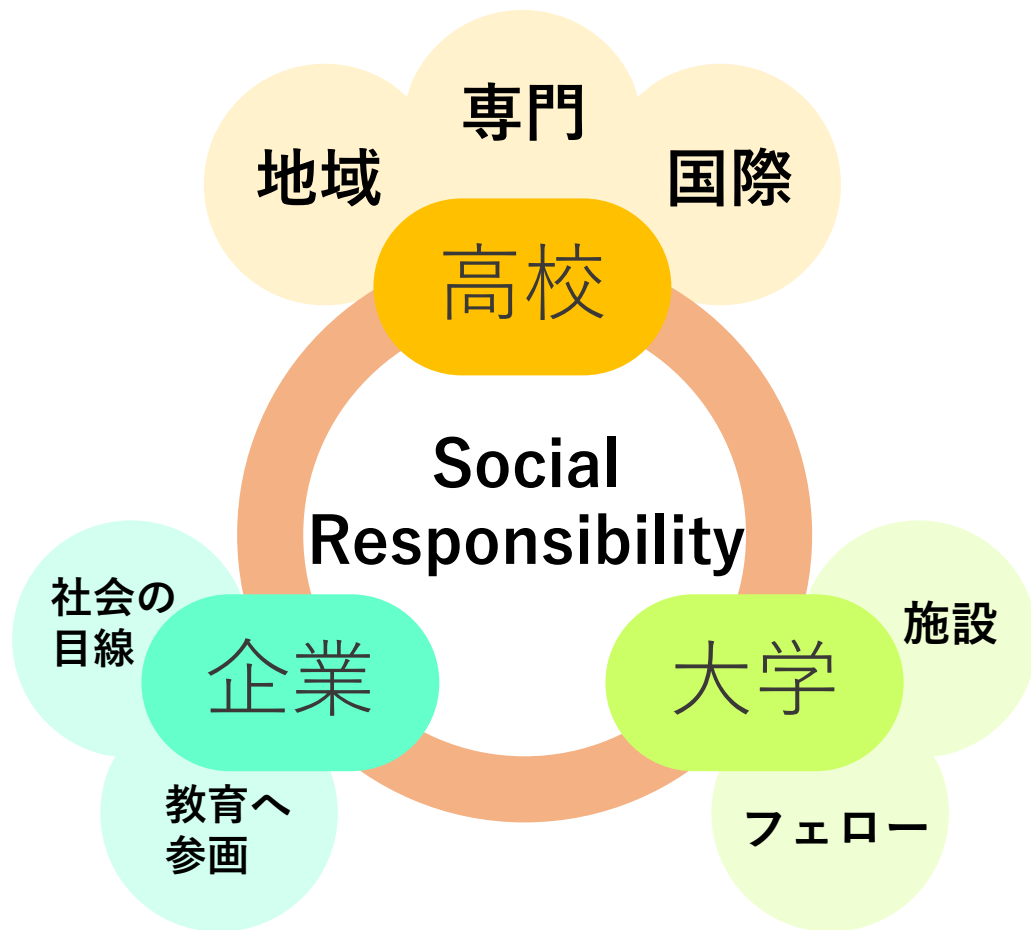
宇治



SGHでの取り組み

③ 第1回全国高校生SRサミット FOCUS の開催 with 他校・企業

他校のプロジェクトを多様な高校生が混じって議論する。



SGHの取り組みでの変化

英語教育 ▶▶▶ 英語 + PBL型教育

アイデアベース ▶▶▶ アクションベース

校内での活動 ▶▶▶ 校外での活動

競争的発想 ▶▶▶ 共創的発想

ネットワークの構築は必然

WWLへ挑戦

教育を良い方向に向ける鍵の一つは

社会とつながること
イノベーティブであり続けること

今の活動は未来につながる

信頼の構築

この関係を発展できたWWLとすべての関係に感謝

セブ (マクタン島とセブ島)

2019年2月

英語研修 + 現地NPO訪問など

中3

教育支援のNPOで子供たちと交流

この時(2019年2月)の中3が、
今(2021年度)高3で活躍

高3

文部科学大臣賞

2021年12月

部屋からの景色

これがあったからできた?

目の前にいる生徒の成長を
イメージして申請書を作成



本日の話題

- 1 はじめに
- 2 **構想目的と目標**
- 3 何が実現したか
- 4 コロナ禍での対応とそれ以降
- 5 生徒たちの成長につながったか
- 6 課題となったこと・今後に向けて

WWLでめざしたこと

- イノベーティブなグローバル人材を育成することが目標
Society 5.0の時代に活躍する人材。SDGsを実現する人材。
スーパージェネラリストを育成。

しかし、**段階的な底上げが必要・探究学習とセットで引き上げる**

- マインドセットの育成が第一段階
- 異なる文化背景の人々との交流によるコミュニケーション能力・
振り返りの能力
- PPDAC の必要性を理解し定着
- 研究・探究する力
本質を見抜く力， 課題の因果関係を明確にでき (Problem)
仮説を立て、調査計画を立て、データを集める力， (Plan)(Data)
データの分析や活用力， 論理的に結論を導く力， (Analysis)(Conclusion)
それらをわかりやすく説明するなど

WWLでめざしたこと

- 教育の仕組みを変えるWWLコンソーシアム構築
Advanced Learning Networkを組織
連携校、大学、企業、NPO、法人、海外の学校
ALネットワークで新しい教育システムを開発（含高大接続）
- 文理融合のカリキュラム開発
文系にも数学選択・理系にも地歴選択・高度な学び
- 生徒は探究型授業で課題研究 • 大学の先取り学習
- カリキュラムに関連付いた海外研修、国際会議を開催

主催国際会議

- 3タイプの国際会議を計画
目的によって分類

① Global Youth Fair (新しい価値を創出)

英語による **高いレベルの議論**・課題研究の成果を活かす

生徒主体の実行委員会 (他の会議で経験を積んだ生徒中心) ・ **大会宣言を出す**

② SRサミット FOCUS (多様性の中でプロジェクトベース)

各校で実行している **プロジェクトを多国籍・社会人も交えてブラッシュアップ**

言語は日英混合・APU国際学生・海外の学校と究極のPBLを実現

③ World Youth Meeting (イニシエーション型チームで協働)

海外他校とチームを組み (高校生同士)、大会テーマに沿ったプレゼン (提案) を作成

コンフリクトを乗り越え、協働する力を養成

プレゼンは高校生の立場で実行可能なことを提言

国際会議だけでなく
研修の目的
(どんな力を伸ばすのか)
明確化し分類する
等を

書いておいてよかった!

しっかり
準備せよ



本日の話題

- 1 はじめに
- 2 構想目的と目標
- 3 **何が実現したか**
- 4 コロナ禍での対応とそれ以降
- 5 生徒たちの成長につながったか
- 6 課題となったこと・今後に向けて

ALネットワーク参加校・団体（スタート時）

事業協働機関 (国内外の大学, 企業, 国際機関等)	①	立命館大学	仲谷 善雄
	②	立命館アジア太平洋大学	出口 治明
	③	アイ・シー・ネット株式会社	多田 盛弘
	④	株式会社内田洋行	大久保 昇
	⑤	株式会社NTTドコモ	吉澤 和弘
	⑥	株式会社公文教育研究会	池上 秀徳
	⑦	NPO法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会	新開 純也
	⑧	一般社団法人GiFT	辰野 まどか
事業連携校 (国内外の高等学校等)	①	台湾 中山大学附属國光高級中学 (国立)	郭 啟東 ChieTong Kuo
	②	タイ KASETSART UNIVERSITY LABORATORY SCHOOL (国立)	Sasitorn Jangpakorn
	③	市川高等学校 (私立)	宮崎 章
	④	聖光学院高等学校 (私立)	工藤 誠一
	⑤	青翔開智高等学校 (私立)	横井 司朗
	⑥	福岡雙葉高等学校 (私立)	西山 和幸
	⑦	東明館高等学校 (私立)	慈道 裕治
	⑧	立命館高等学校 (私立)	堀江 未来
	⑨	立命館慶祥高等学校 (私立)	久野 信之
	⑩	立命館守山高等学校 (私立)	寺田 佳司

全国から連携校・様々な企業団体（**全国型：多様にしたい思い**）

最終目標 国内連携校15校以上・連携大学3校以上・海外連携校6校以上・企業団体10以上

さらなる強化を模索

当初	①	立命館大学	仲谷 善雄
当初	②	立命館アジア太平洋大学	出口 治明
元	③	フィリピン Lyete Nomal University	JUDE A. DUARTE
当初	①	株式会社内田洋行	大久保 昇
当初	②	アイ・シー・ネット株式会社	百田 顕児
当初	③	一般社団法人GIFT	辰野まどか
当初	④	NTTドコモ株式会社 法人ビジネス戦略部スマートライフサービス推進	担当部長 山本 哲史
当初	⑤	株式会社公文教育研究会	池上 秀徳
当初	⑥	認定NPO法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会	新開 純也
元	⑦	タクトピア株式会社	長井 悠
元	⑧	Learning in Context (協和物産株式会社)	空田 真之
元	⑨	インドネシア 西スマトラ州 Padang Panjang City	FADLY AMRAN
2	⑩	タイガーモブ株式会社	菊地 恵理子
2	⑪	株式会社Inspire High	杉浦 太一
2	⑫	CURIO Japan 株式会社	今西 由加
2	⑬	アシックスジャパン株式会社マーケティング統括部	野上宏志
2	⑭	米国ハワイ州観光局	ミツエ・ヴァーレイ

当初	①	台湾 中山大学附属國光高級中学	(国立)	陳 修平 (新)
当初	②	タイ KASETSART UNIVERSITY LABORATORY SCHOOL	(国立)	Sasitorn Jangpakorn
元	③	Philippine Science High School System	(国立)	Lilia T. Habacon
元	④	マレーシア Sekolah Menengah Kebangsaan (Perempuan) Sri Aman	(公立)	MISLIAH BT. KULOP
元	⑤	メキシコ メキシコ学院メキシココース	(私立)	Ada de las Mercedes Rangel Menchaca
2	⑥	高雄市私立三信高級家事商業職業学校	(私立)	林 岑
		インドネシア・香港・シンガポール検討中	()	
			()	
当初	①	学校法人市川学園市川高等学校	(私立)	宮崎 章
当初	②	学校法人聖マリア学園聖光学院高等学校	(私立)	工藤 誠一
当初	③	学校法人鶏鳴学園青翔開智高等学校	(私立)	横井 司朗
当初	④	学校法人福岡雙葉学園福岡雙葉高等学校	(私立)	西山 和幸
当初	⑤	学校法人東明館学園東明館高等学校	(私立)	黒木 忠好
当初	⑥	学校法人立命館立命館高等学校	(私立)	東谷 保裕
当初	⑦	学校法人立命館立命館慶祥高等学校	(私立)	江川 順一
当初	⑧	学校法人立命館立命館守山高等学校	(私立)	寺田 佳司
元	⑨	愛媛県立三崎高等学校	(公立)	若江 亨
元	⑩	宮崎県立宮崎大宮高等学校	(公立)	押方 修
元	⑪	宮崎県立飯野高等学校	(公立)	長谷川岳洋
元	⑫	長崎県立長崎東高等学校	(公立)	鶴田 栄次
元	⑬	学校法人名城大学名城大学附属高等学校	(私立)	伊藤 憲人
元	⑭	国立明石工業高等専門学校	(国立)	笠井 秀明
2	⑮	広島県立安芸府中高等学校	(公立)	高橋 真

最終目標 すべて達成

国内連携校15校以上・連携大学3校以上・海外連携校6校以上・企業団体10以上

カリキュラム

IGコース

学年\時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	EX
1年	保健	体育	国語総合			現代社会			数学Ⅰ	数学A	科学 と 人間生活	社会 と 情報	芸術Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	PESⅠ	家庭基礎	コア探究	HR	土曜講座												
2年	保健	体育	日本語Ⅰ	日本史A	世界史A	数学Ⅱ			SDGsⅠ 数学B 倫理 政治経済	化学基礎 地学基礎	物理基礎 文学総合 PDEnglish	生物基礎 芸術Ⅱ 第2外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	PESⅡ	コア探究	HR	土曜講座														
3年	体育		数学Ⅲ			物理探究 化学探究 歴史探究			先端理工入門 SDGsⅡ 文科探究 物理/化学/生物	文化と表現 芸術探究 統計学 プログラミング 簿記	コミュニケーション英語Ⅲ	PESⅢ	コア探究	HR	土曜講座																

※PES: Productive English Skills

IMコース

※コア探究: 総合的な探究の時間は特例で総合的な学習の時間に読み替え2018年度から研究開発学校として研究開発を開始

学年\時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	EX
1年	保健	体育	国語総合			現代社会			数学Ⅰ	数学A	科学 と 人間生活	社会 と 情報	美術Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	英語表現Ⅰ	英語特修	家庭基礎	総合	HR	土曜講座												
2年	保健	体育	日本語Ⅰ	日本史A	世界史B	数学総合A			化学基礎	美術Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅱ	TOK	総合	HR	土曜講座																
3年	体育		日本語Ⅱ (小論文)	Citizenship (社)	International Literature (Reading)	Academic Communication (Writing & Presentation)			Mathematics	Science for SDGs	第二外国語	TOK	課題研究 GLS	HR	土曜講座																	

※TOK: IBの基幹科目のTheory of Knowledge

※太字は完全イメージ授業

• 文理融合クラス

• コア探究

なぜ学ぶか

課題発見

課題解決

• 科学と人間生活

• SDGs

• Science for SDGs

• 土曜講座

(コロナ禍で正課優先)

• 高大接続

・開始年度 2019年度

連携校と覚書・生徒向け研修参加確認書を作成
facebookグループページ・MLなどの連絡手段整備
AYF 台湾 (中山大学附属國光高級中学) (7月)
APUサマーキャンプ (7月) 連携校から5名参加
全国高校生SRサミット FOCUS (7月) 全連携校
ハワイ州ビーチクリーン作戦 in Hawaii (8月)
ビーチクリーン→鴨川清掃⇒ツーリズムエキスポで発表
→ Students Energy Summit (11月) 参加
World Youth Meeting (8月) 連携校から2校参加
ラオス研修 (8月・12月) 連携校から6名参加
第1回MUN実施 (12月) 7校 133名
Asian Student Exchange Program (12月) 参加
フィリピン研修 (3月)

.....しかし



全国型を目指し全国へ波及・相互に影響例(一部)

愛媛県立三崎高等学校

せんたんサミット
廃校の危機を救う生徒の活動

福岡雙葉高等学校 他

海外研修参加から新しいプロジェクト

連携校企画に相互で乗り入れ → **1校でできないことができる(役割)**

宮崎県立飯野高等学校

グローバルリーダーズサミット
数々の地元活性化プロジェクト

宮崎県立宮崎大宮高等学校

長崎県立長崎東高等学校

連携校からWWL拠点校 2校誕生

カリキュラムの研究

相互に影響



1年目に2020年度にむけて準備が始まっていたこと

連携団体と共に授業「SDGs」と連動した研修構築

国際会議開催の実行委員会立ち上げ

海外開催の国際会議や海外研修に参加した生徒を中心に

海外連携校とのプログラム構築

APUの正課海外研修に乗り入れ・AP化 **しかし**